

11	課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
	17109002	自然免疫の構造生物学	稲垣 冬彦 (北海道大学・大学院 薬学研究院・教授)	A
<p>(意見等)</p> <p>2つの研究課題に取り組み、それぞれにおいて構造決定に成功し、その一部は既に論文発表されている。NADPH 酸化酵素の細胞質サブユニットでは p47,p40 の構造決定に成功し、p47 と p22 のペプチドとの複合体の構造決定も行った。リン酸化 IRF-3 の構造を決定し、従来提唱されてきたシグナル伝達の仕組みを再検討する必要があることを明らかにした。</p> <p>それぞれ決定された構造は、そのはたらきの仕組みを明らかにする上で重要な情報を与えており、学術的価値も高い。これらの研究成果は自然免疫の構造に基づいた理解を深め、医学分野への構造分野からの波及効果を期待できる研究になっている。</p> <p>今後の研究においては、当初計画に従って複合体の構造決定を中心に据えた飛躍的な展開を期待できる。</p> <p>以上のとおり、当初の計画がおおむね順調に達成されていると言える。</p>				
12	課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
	17109003	動的細胞内シグナルの可視化研究	飯野 正光 (東京大学・大学院医 学系研究科・教授)	A
<p>(意見等)</p> <p>研究代表者による細胞内 Ca シグナル機構についての研究は、これまで Ca イメージング、二光子励起法などの先端技術を駆使して、優れた成果を上げてきた。本研究においてもシグナル伝達の動的可視化を目的とし、新規に開発した可視化プローブを用いて、小脳平行線維のシナプスの可塑性における NO シグナルの解析や、細胞間接着情報を細胞内に伝える新規カルシウム依存的メカニズムの発見など、順調に研究は進行している。</p> <p>ただ、遺伝子改変動物の作製に関しては、若干進展が遅れており、申請にあげられた個体レベルでの解析の成果が得られていないのが、今後の課題である。</p>				